

辺見庸 大阪講演会 第4弾

怒りと絶望は、 どのように 表現するべきか

「戦争の時代」の、
たちいふるまいについて

なにげない日常の裏面に、
いつの間にか「戦争の時代」がきている。

“テロとの戦争”は拡大の一途をたどり、
戦争法を可決したニッポンも「国際反テロ戦争」に参戦しかねないきおいだ。
いまや足下がくずれつつある。世論ははげしい流砂のなかにある。
一日一日、一刻一刻の声、身ぶり、たちいふるまいが問われている。
「戦争の時代」のなかで、徹底的な、妥協なき「反戦主義」の可能性をさぐる。

- 平和の理想は現実に屈服すべきか？
- “テロリスト”とはだれか？
- だれが、なんのために戦争におもむくのか？
- 暴力とはなにか？
- 憲法9条は「削除・改定」すべきか？
- マスメディアは正気か？
- 現行憲法に「緊急事態条項」は必要か？
- ことばはまだ有効か、もう無効か？
- “テロリズム”とはなにか？

2016
4/3

大阪市立阿倍野区民センター

- ▶ 開場 12:30 ▶ 開演 13:00 (途中休憩あり約2時間半)
- ▶ 参加費 大人 1500円 学生 1000円
- ▶ ホームページ <http://hemmiyo-osaka.info/>

講演前
チェロ演奏あり

中山 由佳理

バッハ作曲
無伴奏チェロ組曲第1番より
プレリュードほか

プロフィール



作家 **辺見 庸** (へんみ よう)

1944年宮城県生まれ。共同通信社を経て作家に。91年『自動起床装置』(文芸春秋社、文春文庫、新風舎文庫)で芥川賞、94年『もの食う人々』(共同通信社、角川文庫)で講談社ノンフィクション賞、2011年詩文集『生首』(毎日新聞社)で中原中也賞、2012年詩集『眼の海』(毎日新聞社)で高見順賞を受賞。他に『自分自身への審問』(毎日新聞社、角川文庫)、『水の透視画法』(共同通信社、集英社文庫)、『瓦礫の中から言葉を-わたしの<死者>へ』(NHK出版新書)、『青い花』(角川書店)、『霧の犬』(鉄筆)、『1★9★3★7』(週刊金曜日)、『もう戦争がはじまっている』、『流砂のなかで』(高橋哲哉との対談、以上河出書房新社)など多数。

チェリスト **中山 由佳理** (なかやま ゆかり)

京都市立芸術大学音楽部卒業後、渡仏。パリ17区音楽院、フランス国立モントレイユ音楽院卒。関西を中心に演奏活動を行う。

参加・お申込み

参加費

大人 **1500円** 学生 **1000円**

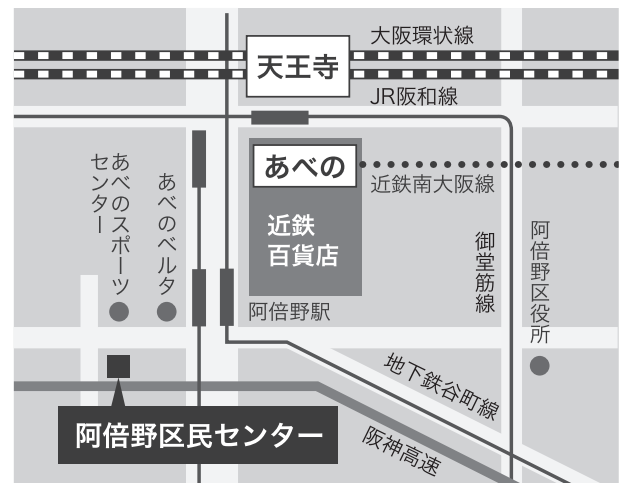
参加お申込み方法

お名前・連絡先・人数を明記のうえ、メールまたは往復はがきでお申込みください。折り返し、振込先をご連絡いたします。先着順、定員(644)になり次第、締切らせていただきます。

- メール 2016.4.3@hemmiyo-osaka.info
- 住所 〒534-0026
大阪市都島区網島町 12-11
雅叙園ハイツ 1010号室 松本工房
- ホームページ <http://hemmiyo-osaka.info>

アクセス

地下鉄谷町線「阿倍野」駅下車 6 番出口すぐ
「JR 天王寺」駅 & 近鉄南大阪線「阿倍野橋」駅下車徒歩 13 分



大阪市立阿倍野区民センター

大阪市阿倍野区阿倍野筋 4-19-118

関連催し物

辺見庸展「豊饒なる世界」～テキストと写真から見る、現世の外へ～

辺見庸の沈黙の割れ目から発せられることばと、作家の眼が風景の中に発見した写真が出会い、変幻自在し、もう一つの時空間が立ち上がる作品展。作家・辺見庸のことばと写真によるコラボレーション。

<展示期間> 3月26日(土)～4月4日(月) 12:00-19:00 4月3日(日)は辺見庸講演会のため、お休みします。

<展示会場> フォトギャラリー・サイ

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲2丁目7-19

●tel&fax: 06-6452-0479 ●E-mail: info@photo-sai.com

詳細はフォトギャラリー・サイのホームページをご覧ください。 <http://photo-sai.com>